

4. 研究発表・実践報告

(1) 発表プログラム

12月4日(月)

第1部 17:30～18:30 会場:サイエンスホール 生命館B2階 座長:宗政 剛(ディスカバリーパーク焼津)

17:30	Martin George (国際プラネタリウム協会・IPS/会長)	国際プラネタリウム協会(IPS)についてのご紹介
17:45	伊東 昌市(杉並区立科学館)	オーストラリアで開催されたIPS
18:00	加藤 賢一(大阪市立科学館)	日本プラネタリウム導入史
18:15	本部 勲夫(京都市青少年科学センター) 井出絵実子(京都大学大学院生命科学研究所生命文化化学分野)	プラネタリウム特別番組「宇宙と細胞に物語をみつけました!」の実施について

第2部 19:15～20:15 会場:プラネタリウムドーム 天文館3階 座長:加藤 治(宗像ユリックスプラネタリウム)

19:15	古賀 祐三(有)遊造)	Live!オーロラ「オーロラ映像のインターネット中継プロジェクト」
19:30	Steven T. Savage(スカイ スキャン社・SKY-SKAN.INC)	Digital Sky 2 のデモンストレーション
19:45	松村 元太(コニカミノルタプラネタリウム(株))	全天デジタルコンテンツのご紹介
20:00	黒沼 桂一(株)五藤光学研究所)	プラネタリウムのハイブリッド化の意味(光学式とデジタルの融合)

第3部 21:15～21:30 会場:プラネタリウムドーム 天文館3階

21:15	鈴木康史・藤田靖・井上毅(明石市立天文科学館)	軌道星隊 シゴセンジャー!
-------	-------------------------	---------------

12月5日(火)

第1部 9:45～10:45 会場:サイエンスホール 生命館B2階 座長:長谷川 好世(白井市文化センター・プラネタリウム)

9:45	明井 英太郎(株)五藤光学研究所)	GOTO NOW2006 五藤光学の今、そしてこれから
10:00	藤掛 曜平(コニカミノルタプラネタリウム(株))	プラネタリウムのデジタル化への取り組み2
10:15	高橋 博子(仙台市天文台)	仙台市天文台の53年
10:30	鳥越 海帆・角田 佳昭 (宗像ユリックスプラネタリウム)	ボランティアスタッフと共に ~エム・ワイ・ピー4年半の歩み~

第2部 13:15～14:30 会場:名古屋商工会議所 3階 会議室

第1会場		第2会場	
座長:加藤 治(宗像ユリックスプラネタリウム)		座長:	
13:15	Martin George (IPS) Astronomy in Australia-planetariums and observatories	武田 隆顕 (国立天文台)	4D2U ドーム用立体ムービー予告
13:30	河野 徹也 (サンシャインスターライトドーム"満天") "満天"の歩み	上山 治貴 (㈱アストロアーツ)	プラネタリウムを携帯電話から全天周まで
13:45	大平 貴之 (㈱大平技研) メガスターのこれから	北尾 浩一 (加古川総合文化センター)	星座になった暮らしの道具
14:00	小林 道夫 (カガクノトビラプロジェクト) 低予算デジタルコンテンツの現状と今後	菅原 賢・佐藤栄里子・藤田みさお (厚木市子ども科学館)	火星再接近に備えて ~簡単に役に立つ教材紹介~
14:15	喜多 伸介 (柏プラネタリウム) 光害を無くそう	福永 則子 (東急まちだスターホール)	地域に根ざしたプラネタリウムの実践3 夏休みこどもスタンブラリー

12月4日～6日 **ポスター発表** 会場:サイエンスホール・ホワイエ 生命館B2階

多胡 孝一(釧路市こども遊学館)	釧路市こども遊学館のプラネタリウム番組作りについて
原 秀夫(熊本市立熊本博物館)	プラネタリウムの星空と最新の天文学をつなぐ試み -ワンダー・プラネタリウム「南米の空を見上げて ~星座カメラ i-CAN で見る星空とALMA計画~」の報告-
土川 啓(北陸プラネタリウム協議会)	北陸プラネタリウム協議会の活動報告
中島 健次(那須香大阪天文台)	那須香の20年 ~プラネタリウム支援事業の現状と未来
大川 拓也(㈱アストロアーツ)	星ナビとプラネタリウム

*ポスター発表は、12月4日16:30～17:30とプログラムの合間の時間を使って見学していただきます。

4 (2). 発表内容

12月4日(月) 第1部 17:30~18:30

会場：名古屋市科学館サイエンスホール

17:30 「国際プラネタリウム協会 (IPS) についてのご紹介」

Martin George (国際プラネタリウム協会 IPS 会長)

IPSはアメリカ、ヨーロッパ諸国、インド、日本、オーストラリア などIPSを含め世界22のプラネタリウム団体で構成される世界最大の組織です。そしてその目的は世界中の会員がお互いに協力し助け合うことによって、より活動的な未来志向のプラネタリウム作りを目指すものです。日本のプラネタリウムの皆さまには引き続き構成団体として活動していただき、世界のプラネタリウム・コミュニティ作りのために貢献を続けていただきたいと思います。

17:45 「オーストラリアで開催されたIPS」 伊東 昌市 (杉並区立科学館)

今年の7月24~28日にIPS隔年総会がメルボルンで開催されました。それに先立って22~23日には評議委員会が開かれ、29日~8月4日はポストコンフェレンス・ツアーが行われました。その様子をかいつまんで報告します。

18:00 「日本プラネタリウム導入史」 加藤 賢一 (大阪市立科学館)

1937年(昭和12年)わが国で最初のプラネタリウムを併設した大阪市立電気科学館が開館しました。そのプラネタリウム導入の経過、関係した人々、導入の意図などを紹介し、電気科学館がわが国最初の科学館として誕生したこととプラネタリウムの導入が密接に関連していること、電気科学館誕生が翌年東京に設置された東日天文館と深い関係があることなどを示します。

18:15 「プラネタリウム特別番組「宇宙と細胞に物語をみつけました！」の実施について

本部 勲夫 (京都市青少年科学センター)

井出 絵実子 (京都大学大学院生命科学研究科生命文化学分野)

今年夏、京都大学と当センターが連携して、生命科学に関する最新の研究成果をプラネタリウムの中で体験する特別番組を実施しました。内容は、地球の自転リズムが生物の持つリズムに関係していることに着目し、生物の持つリズムがどのようにして生み出されているかを研究に基づいた映像を交えて紹介するというものである。その実践について報告します。

12月4日(月) 第2部 19:15~20:15

会場：名古屋市科学館プラネタリウムドーム

19:15 「Live! オーロラ「オーロラ映像のインターネット中継プロジェクト」

古賀 祐三(有限会社 遊造)

アラスカ・フェアバンクス近郊に設置したライブ中継機器より伝送されたオーロラ映像を PC、TV 等メディアのほか、プラネタリウムにも中継します。定点観測及びインターネット中継であるため、常時配信が可能となりました。現地からは、フルカラー及び実速度の高感度映像、高解像度及び魚眼レンズからの早送り準ライブ映像が伝送されます。

19:30 「Digital Sky 2 のデモンストレーション」 Steven T. Savage (SKY-SKAN. INC)

ドーム内に 4K SXRD プロジェクター 2 台を設置し、最新の全天周デジタルプラネタリウム(Digital Sky 2 + Digital Universe) を紹介します。

19:45 「全天デジタルコンテンツのご紹介」

松村 元太(コニカミノルタプラネタリウム株式会社)

「銀河鉄道の夜」(kagaya 作) の映像(予定)とコニカミノルタで作成した全天デジタルコンテンツを紹介します。(SS 社の Digital Sky 使用)

20:00 「プラネタリウムのハイブリッド化の意味(光学式とデジタルの融合)」

黒沼 桂一(株式会社五藤光学研究所)

光学式プラネタリウムの星空を持ち込み、光学式ならではの星の美しさを改めて確認すると共に、当社がプラネタリウムのハイブリッド化を進める意味合いを発表します。

12月4日(月) 第3部 21:15~21:30

会場：名古屋市科学館プラネタリウムドーム

21:15 「軌道星隊 シゴセンジャー！」

鈴木 康史、藤田 靖、井上 毅(明石市立天文科学館)

軌道星隊シゴセンジャーは、明石の時を守るためにプラネタリウムに登場した正義のヒーローです。解説者が「変身」してプラネタリウムに登場します。シゴセンジャーは、ただ面白おかしいプラネタリウムを目指しているわけではありません。明石は子午線の街と呼ばれますが、それは明石に東経 135 度子午線が通過することを大切に考えた明石の先人たちの熱い想いがあるためです。そんな明石の人々の子午線に対する想いを後世に伝えたい、これがシゴセンジャーの願いです。

12月5日(火) 第1部 9:45~10:45

会場：名古屋市科学館サイエンスホール

9:45 「GOTO NOW2006 五藤光学の今、そしてこれから」

明井 英太郎(株式会社五藤光学研究所)

2006年、五藤光学は様々なことを実践してきました。その内容を報告すると共に、2007年以降に向けた新たな取り組みを紹介します。

10:00 「プラネタリウムのデジタル化への取り組み2」

藤掛 曜平(コニカミノルタプラネタリウム株式会社)

昨年の大阪大会で発表させていただいた内容から1年間経過して、スーパーメディアグローブやジェミニスター3が実際に納入されました。今回は、それら最新機器の操作性(使い易さ)に焦点を当てて紹介します。

10:15 「仙台市天文台の53年」 高橋 博子(仙台市天文台)

「子どもたちに科学の心と夢を」という熱意が、行政と市民の心を動かし、仙台市天文台が誕生しました。市民に支えられ半世紀の時を刻んできましたが、2008年新たな姿でスタートをきることとなりました。今回は、50年の歩みと閉館に向けた来年度の取り組み等をお話しさせていただきたいと思えます。

10:30 「ボランティアスタッフと共に ~エム・ワイ・ピー4年半の歩み~」

鳥越 海帆・角田 佳昭(宗像ユリックスプラネタリウム)

宗像ユリックスプラネタリウムを運営するNPO法人エム・ワイ・ピーは「地域に根ざしたプラネタリウム」という理念のもと、ボランティアスタッフと共に様々な活動を行ってきました。これまでの4年半の活動の中で番組内で使用する特殊投影機の製作などを行いました。さらにこれらの活動を土台に、今回、ボランティアスタッフを主体としてクリスマス番組を制作しました。この、クリスマス特別番組「クリスマスのおくりもの」を中心に報告します。

12月5日(火) 第2部 13:15~14:30 第1会場

会場：名古屋商工会議所3階 第 会議室 (は当日発表します。)

13:15 「Astronomy in Australia-planetariums and observatories」

Martin George (国際プラネタリウム協会 IPS 会長)

オーストラリアのプラネタリウムと天文台についての現状を報告します。

13:30 「“満天”の歩み」 河野 徹也 (サンシャインスターライトドーム “満天”)

リニューアルオープンからの番組の流れや集客状況などを報告します。

13:45 「メガスターのこれから」 大平 貴之 (有限会社 大平技研)

2005-2006年のメガスター活動、新型メガスターの開発、全天デジタルコンテンツについて紹介します。

14:00 「低予算デジタルコンテンツの現状と今後」 小林 道夫 (カガクノトビラプロジェクト)

カガクノトビラプロジェクトではPCやインターネットで育まれてきたFLASHやWindowsMediaなどの技術を利用した、低予算・高品質なデジタルコンテンツの可能性を探っております。今回は星空解説にFLASHムービーをアレンジした番組をご用意・ご紹介しつつ、今後の展望までお話しさせていただきます。

14:15 「光害を無くそう」 喜多 伸介 (柏プラネタリウム)

夜空に放たれる光が夜空を明るくし、星の微かな光をかき消してしまいます。これを光害と言います。宇宙から見た夜の地球の写真を見たことがあるでしょうか？日本はその形がわかるほどクッキリしています。それは私達の生活に役に立つ事無く無駄に消えていくエネルギーでもあるのです。エネルギーを無駄に使う事、それは地球温暖化を招く要因にもなっています。皆さんはプラネタリウムでどのように解説していますか？私達の一言で日本の未来が変わっていくのです。

12月5日(火) 第2部 13:15~14:30 第2会場

会場：名古屋商工会議所3階 第 会議室 (は当日発表します。)

13:15 「4D2Uドーム用立体ムービー予告」 武田 隆顕(国立天文台)

国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト(4D2Uプロジェクト)では、天文学の理論と観測のデータを用いて、天文学者が描き出す最新の宇宙像を「目のあたり」にすることを目指しています。現在我々は、平面スクリーン立体視用の映像制作で利用してきたデータをもとに、コニカミノルタプラネタリウム、五藤光学研究所とともに、ドーム用立体視コンテンツを制作しています。今年度末完成予定である、地球と月の誕生(仮題)、天の川銀河の起源(仮題)、宇宙の構造(仮題)の3コンテンツについて紹介します。

13:30 「プラネタリウムを携帯から全天周まで」 上山 治貴(株式会社アストロアーツ)

天文シュミレーションソフトウェア「ステラナビゲータ」の技術をベースに携帯電話から全天周投影まであらゆるデバイスに「星空」を表示することができ、あらゆる場所での天文教育をサポートします。

(1) ソフトバンク携帯電話「星座をさがそ」(2) ステラナビゲータ8 (3) ステラプロジェクト

13:45 「星座になった暮らしの道具」 北尾 浩一(加古川総合文化センター)

開館20周年記念番組『空を見上げてごらん ~星座になった暮らしの道具』の制作にあたって加古川で使われていた星座に関係する道具の調査を行なった。本発表では、加古川で使われていた道具をもとに「日本の星座」をたずねたい。

14:00 「火星再接近に備えて ~簡単で役に立つ教材紹介~」

菅原 賢、佐藤 栄里子、藤田 みさお(厚木市子ども科学館)

来年12月19日には、再び火星接近を迎えます。2003年の超大接近ほどの観測条件ではありませんが、一般の関心が高まると予想され、プラネタリウムからの情報発信が重要となります。その際の参考事例として、当館が前回(2005年)接近時に開発した以下の教材とその使用例を紹介します。

(1) 火星観察疑似体験装置 (2) 模型と映像で火星の距離をイメージする教材

14:15 「地域に根ざしたプラネタリウムの実践3 ~夏休みこどもスタンプラリー~」

福永 則子(東急まちだスターホール)

2006年夏休み、町田市立博物館、町田市立中央図書館、東急まちだスターホールの3館で、夏休みこどもスタンプラリーを開催しました。達成者は388人と予想を上回る成果でした。地域内施設の連携を活かした事例について報告します。

12月4日(月) ~ 6日(水) ポスター発表 会場:サイエンスホール・ホワイエ 生命館B2階

「釧路市こども遊学館のプラネタリウム番組作りについて」

多胡 孝一(釧路市こども遊学館)

釧路市こども遊学館(平成17年7月開館)には、光学式と電子式の2つの投影機を併せ持つ、「ジェミニスター」プラネタリウムが導入されています。当館では、それらの機器を活用し、さらに、地域と連携しながら、職員がオリジナルのオート番組を作成しています。その番組作りについて発表します。

「プラネタリウムの星空と最新の天文学をつなぐ試み - ワンダー・プラネタリウム

「南米の空を見上げて ~ 星座カメラ i-CAN で見る星空と ALMA 計画 ~ 」の報告 - 」

原 秀夫(熊本市立熊本博物館)

研究者が最新の天文学をプラネタリウムで伝える試みとしては、JPS 教育部会「天文学会とのコラボレーション事業」などにより、いくつかの実践が報告されています。熊本博物館では、独自の企画として、3名の講師を招き、ワンダー・プラネタリウム「南米の空を見上げて~星座カメラ i-CAN で見る星空と ALMA 計画~」を実施しました。単なる講演会ではなく、プラネタリウムの投映として、熊本の星空から ALMA 計画へとつながるような展開としました。また、投映の中で、星座カメラ i-CAN を使って本物の星空を観察したことも今回の企画の特徴です。75分間の投映内容を中心に報告します。

「北陸プラネタリウム協議会の活動報告」

土川 啓(北陸プラネタリウム協議会)

北陸プラネタリウム協議会の活動を報告します。

「那須香の20年 ~ プラネタリウム支援事業の現状と未来」

中島 健次(那須香大阪天文台)

那須香大阪天文台と私が行ってきた20年のプラネタリウム支援事業の現状。年間平均130回。来場者のべ1万3000人の市民の反応。これからの新しい取り組みの紹介。携帯電話と連携したイベントと2007年より供用する屋内プログラム「ファントム」を紹介します。

「星ナビとプラネタリウム」

大川 拓也(株式会社アストロアーツ)

雑誌とウェブにおける各館のイベント情報の扱いなどについて報告します。